



2012-13

週報



パワー浜松ロータリークラブ事務局  
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2  
オークラアクティホテル浜松4307号室  
Tel/Fax 053-452-0800

Email info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立/2002年10月22日 RI承認/2002年11月27日  
認証伝達式/2003年4月29日  
スポンサークラブ/浜松中RC



奉仕を通じて  
**平和を**  
田中作次  
2012-13年度  
国際ロータリー会長

RIテーマ「奉仕を通じて平和を」会長/田中作次(八潮RC)  
2620地区のテーマ「クラブは自ら活性し、お互いのつながりを実感しながらロータリーを伸展させよう」  
ガバナー/高野孫左エ門(甲府RC)  
パワー浜松RCのテーマ「固く結ぼう心の絆、分かち合おう総ての仲間と」会長/小澤邦比呂

第475 回例会2月19日(火)AM7:30~8:30

オークラアクティホテル浜松4F平安の間 ■司会: 木村満義・森俊彦  
■点鐘: 小澤邦比呂 ■ロータリーソング: 希望のエネルギー  
■ゲスト: 龍谷義行(入会予定者)

出席

89名中68名76.40%  
前々回修正出席率77.52%

## 会長挨拶

ロータリアンの皆さん、おはようございます。

先週はお休みをいただきました。申し訳ありませんでした。代行をお願いしました長谷川副会長には感謝申し上げます。本日は小林昭次さんのご紹介の新会員候補の龍谷さんが例会見学にお越しいただきました。ようこそお越しくださいました。

先々週は中山パストガバナーに「未来の夢計画」についてのお話を伺いました。松本年度実行ということ、そして申請期限が今月末であるということです。ただ今2つの事業候補がありますが決定次第お知らせすることといたします。

今のロータリーの置かれている立場はこの「未来の夢計画」にも表れているように個人的には考えています。本来ロータリーは個々のクラブが、個々の力で社会に貢献し、ロータリーの名を外に向けて発信することが意義だと思っているからです。今、ロータリアンとしての一人一人の情熱が薄れているのでは私は思います。

ですから「未来の夢計画」には国際ロータリーからももう少し奉仕活動をしてくれないか、そして認知度を広めてほしいという意味があるのではと思っています。

夢を持つことは素晴らしいことです。私には二人の娘がいますが、小さい頃から夢を持つことの大切さを教えてきました。よくお風呂で一緒に歌いました。『いつでも夢を』昭和37年にヒットした橋幸男さんと吉永小百合さんの曲です。ちょっと歌ってみます。

♪星よりひそかに～ 雨よりやさしく～ あの娘はいつも歌ってる～  
声が聞こえ～る 淋しい胸に～ 涙に濡れ～たこの～胸に～  
言っているいる～ お持ちなさいな～  
いつでも夢を～ いつでも夢～を～・・・♪

という歌です。夢は持ち続けることが一番です。あきらめてはいけません。夢はあきらめなければ消えません。夢は目指した時から目標が変わります。目標になれば半分達成したのと同じです。

本気で目標を達成する人は知恵や工夫をし、夢が大きければ大きいほど人と関わり、人を巻き込み素晴らしい成果を達成すると思います。わがクラブには90名の会員がいます。一人一人のメンバーは素晴らしい何かを持っているはずで、やはりその何かを使わない手はありません。

夢を達成した時には、素晴らしい成長があります。ちょっとしたことや、少しの気づきも必要ですが夢をもち進むことが必要です。ロータリーとしてはちょっとやそっとの夢ではなく10～20年後の達成を見据えた夢を持つことが必要です。クラブで夢を達成した時にそこには本当の親睦があり、本当の絆が生まれてくれると思います。

松本年度に向けて一つ一つの大きな夢を叶えていくクラブでありたいと思います。



## 幹事報告

- ①先日卓話をいただきました超我の奉仕賞を受賞された山口貴司(中クラブ)様より『ロータリークラブと私の奉仕活動』という冊子をいただきました。
- ②2月27日はIMが開催されます。26日は休会となります。
- ③本日例会終了後、第8回目の理事会を開催します。



3月19日入会予定の龍谷義行さん



2012-13

第475回例会  
2月19日(火)



パワー浜松ロータリークラブ事務局  
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2  
オークラアクティホテル浜松4307号室  
Tel/Fax 053-452-0800  
Email info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立/2002年10月22日 RI承認/2002年11月27日  
認証伝達式/2003年4月29日  
スポンサークラブ/浜松中RC



## クラブ広報委員会メンバーによる卓話

現在の浜松経済は、当社の周辺だけでも駐車場だらけの惨状でとても良い状況にあるとはいえません。日本中見渡しても物作りの街は東京の大田区、長野の諏訪、当地浜松、東大阪 どこも見て衰退の一途にあるように思えます。

殊浜松に関しては、製造業出荷額はリーマンショックまでの2007年までは増加傾向にありその額3兆円を超える規模でした。ですが、現在は2兆円規模にまで衰退しています。国単位で見ても、日本の鉱工業生産は2007年から落ち込んでいます。

ここに日本の苦境が見えます。

そしてその原因は、デフレによる円高。デフレ実質金利が高いから通貨高になるというロジックで説明でき、円高は百害あって一利なしと結論付ける事が出来ます。

アベノミクスはこの状況を打開する物です。その政策の行く末は、安部首相のブレンである浜田宏一氏の議論をベースに解釈すれば大まかな流れが予想できると思います。

詰まる所それはリフレ政策です。デフレから脱却を目指し、2~3%の安定的なインフレ率

に戻す為の政策です。主な手段が積極的な金融緩和。事実その意思表示だけで円ドル相場は80円から94円にまで推移し、日経平均株価も9000円台から一気に11500円台にまで進みました。

ここでリーマンショック以降の現状確認をしたいと思えます。

米国株市場もドイツの株式市場も現在史上最高値に近いところで推移しています。実質GDPも両国ともに堅調に推移し、鉱工業生産指数も安定しています。それと比べると日本の現状の各種指標は明らかに悪いです。

それはなぜか？

結論から言うと「デフレである」からです。そしてこのデフレを作ってしまったのは日銀の責任と言わざるを得ません。

具体的には各国中央銀行の金融緩和の度合いに比べて日銀が出遅れた、ということになります。

株式相場見通すのに中央銀行の政策態度は非常に重要です。株価の決定要素として皆さんが思い浮かべる金利、業績、需給の中では金利が一番重要です。個人的には7割位のウエイトを置いています。そしてこの金利を決定しているのが各国の中央銀行である、というわけです。金利上げは株下げ、金利下げは株上げ、です。

では円高がどう悪いか、をご説明します。

円高とは即ち輸出企業にとっての実質的な値上げになります。そして結果、海外市場での売り上げ落ちます。輸入企業にとってはいいのですが、供給先が100%海外というケースはあまりありません。例外的に石油等ではありますが、たいていの場合輸入商品は国内製品と競合状態にあります。

そして、結果的に値下げ競争となり、輸出志向の国内企業にとっては不利な状態となります。

具体例としてはソニー、シャープ、エルピーダなどがあります。リーマン以降円はドルに対し30%アップしたのですが、対して韓国ウォンはドルに対して30%下げ。日本の輸出企業にしてみれば都合60%上がったことになり、まず勝負にならない状態でした。

同時期、米国も意図的にドル安路線をとっていました。国内的にはリーマンショック以降大規模金融緩和を3回も実施しているのです。

BMWなどのドイツの企業群や、ダイムラーなどの米国企業群はその恩恵を享受し絶好調でした。ユーロ安の恩恵をフルに享受していたのです。余談ですがこのような状況を見ればユーロを真に欲しているのは実はドイツなのかもしれません。

一方日本だけが違う状況でした。為替上昇プレッシャーを一手に引き受けており、お人好しなまでに産業基盤崩壊の手前まできました。結果、電機業界は壊滅的なダメージを受け、辛うじて自動車産業が残った、という状況です。

金融緩和とは 景気が悪ければ利下げ、量的緩和を行うことを示します。

繰り返しになりますが、2008年秋のリーマンショック以降FRB、ECB、BOEなど各中央銀行は金融緩和の姿勢をとって来ました。その結果が如実に現れているのが各国中央銀行バランスシートの動きです。2008年以降BOEで3.5倍、FRBで3倍、ECBで2倍の規模にB/Sが膨れています。一方日銀は2006年に量的緩和を解除以来そのB/Sの増加幅は1.2倍程度です。その結果として円に対して他通貨が希薄化し円高となり、鉱工業生産の動きが鈍化し、株価も下がり、実態経済がネガティブな方向に振れたのです。

アベノミクスにおいてようやく遅れての金融緩和が進行中です。

まずは日銀が更なる量的緩和に踏み込む見通しです。結果としてみくろむのは、為替の円安に、国内インフレ。その先には資産価格上昇も見据えています。つまり変動相場制では自国の物価、為替レート、雇用は金融政策で左右できる、ということになります。

前述の話を受けて今我々がすべきことは以下になります。

まずは現金を物に変える必要があります。つまりは株を買う、不動産を買う、通貨分散をする、ということです。

デフレとは物価が下がっている状態です。逆に言うとお金の価値が上がっているという事。現金保有に近い状態であることが有利でした。ただ、インフレを目標むこれからは違います。インフレとは即ちお金の価値を下がることです。つまりは物を買えばいい、ということになります。

しかしインフレも良いことばかりではありません円安を発端としたエネルギー価格上昇、公共料金の値上げが予想されます。リッチ層は株、不動産を買い、値上がり益で負担を相殺することが出来ます。ですが余裕のない中流層には厳しい政策と言えます。

しかも資産効果でも思い通りにならない可能性すらあります。米国は60%の家庭が株を保有していますので資産効果が出やすいといえます。しかし日本は違います。家計は保険、株を余り多くは持っていません。恐らく波及は限定的であると見られます。とは言いつつも、現況の株高相場は結構続くものと思います。

リフレの本質は円の価値をわざと毀損させる事です。これがどこに帰着するかが注意点です。債券から株シフトが起きるなら追いかけろ。現金で持っていたら酷い事になる、ということです。例えばギリシア、アルゼンチンではそのような流れの中で中流が一瞬でワイプアウトされたことを肝に銘じるべきです。

